









## 高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)便り⑩

### 英語のポスター発表タイで

都内女子校で唯一、文部科学省からSSHの認定を受けている本校の「リケジョ」のうち10人が、1月3日から8日まで、教育協定を結ぶタイのプリンセス・チュラボン・カレッジ・ベッチャブリー校(以下PCCP)を訪問。同校でのサイエンス・フェアでポスター発表を英語で行う体験をしました。生徒たちの現地での様子を、次の方々に語っていただきました。

●教員 北野啓子高等部 郁美教諭(理科)  
教頭(英語科)、織田真 ●生徒 井上瑛子(2)  
奈美教諭(理科)、浅井 梅、鴨下みゆき(2梅)

——どのような準備を。北野 科学の研究ポスターを英語する場合、一定の決まった表現や専門用語があるので、自然科学が専門で、その論理性を一層厳しく追求することになり、私たち教員も大変勉強になりました。

織田 アラン先生とステファン先生に英語の指導をお願いしました。本校のプロジェクトは、生徒たちの発想や疑問から発しているものが多く、高校生に可能な実験で得られる結果は、当初に求めていたも

の質問の背景を私自身が勉強し直し、また一から生徒に教えることが大変でした。このポスター英語の課

外活動はSSHのサイエンス・コロシアムという活動になります。11月からの2カ月、派遣生徒10名は、ほぼ毎週水曜日と土曜日、全11回、放課後遅くまで、この活動に取り組み、その後クリスマスを超えて発表練習をしました。原稿を毎日持ち歩いて読み込み、ポスターの他にも説明の助けになる図や模型を作った

——現地の生徒の様子を。浅井 コミュニケーションを取る手段は英語しかないと思えた時点で皆腹をくくり(笑)、会話で通じなければジェスチャーも使って、パディと積極的に交流していました。ポスターを英語するだけでなく、プレゼンも英語で行ったのは正解でした。本校生徒が説明を始めると、PCCPの生徒たちがたちまち集まってきて、説明の途中でほとんど質問していきま



左から北野教頭、浅井教諭、織田教諭、井上さん、鴨下さん

さんあったようですが、それに対応していた生徒たちの底力を感じました。



ファイルを補足して英語でのポスター発表



PCCPと提携している大学で「GABA」の実験

井上 タイに行くまでは緊張の連続でしたが、実際に現地へ皆さんにお会いして親しみを感じ、少し緊張がほぐれました。『卵の殻でチヨークを作る』をテーマにしたポスター発表も、スツと英語が出てきました。集まってくれた生徒たちが、うなずきながら聞いてくれたり、すぐに質問をしてくれたり、対応が楽しく、さらに緊張がほぐれました。行くまでの練習は辛

が、ヘアを組んだ生徒が、でも英語が上手で、私は彼女が作った原稿をただ読むだけでいい。それは自分の実力ではないのでとても悔しくて、リベンジの意味で、もぜひタイでチャレンジしたいと思いました。選考を

通りましたが、私は研究を始めたのが遅かったの自信が持てず、心配し過ぎて前に進めない大変な時期を過ごしました。仲間と励まし合い、先生からアドバイスをいただきながら、とにかく頑張るのみでした。

鴨下 1年の時から工学院大学が主催する「理科教室」で取り組んできた「ミラクリンの抽出」の研究を、英語で発表するチャンスと思

い、絶対チャレンジしたいと考えました。タイは熱帯地域なので、私が研究中のミラクリンを含むミラクルフルーツがあると思い、自分が発表することでもしPCCPの生徒から教えられることがあるかもしれない、新しい発見があるかもしれないという期待が

あったからです。でも、英語での面接がうまくいかなかったので、選ばれて驚きました(笑)。



保護者に見守られて遊ぶ子どもたち

動城がどんな広がり、できることが増えていく、成長がよくわかるのがとてもうれしいです。加須屋裕子センター長・人間学部教授は次のように力説。「親子の在りのままの姿を見せたい、子どもたちを「子育て世代に必要とされる場」として地道な活動を継続していきます。

## 大学 保育実践研究センター「ふらっと文京」

### 保護者と学生が相乗効果

開設10周年を迎えた保育実践研究センター「ふらっと文京」は、子育て中の方々の大事な心のオアシスとなっています。息子の瑛太君(1歳11カ月)と共に「ふらっと文京」を訪れた森山宣子さんは、「当初はただ遊ばせたい、安全な場所であってほしい、というものがあ



保護者に見守られて遊ぶ子どもたち

ります。以前の私であれば「嫌だ」と思ったはずですが(笑)、今は英語に對しての興味がありますから、授業に對して積極的に取り組みました。マにしたポスター発表も、スツと英語が出てきました。集まってくれた生徒たちが、うなずきながら聞いてくれたり、すぐに質問をしてくれたり、対応が楽しく、さらに緊張がほぐれました。行くまでの練習は辛

が、ヘアを組んだ生徒が、でも英語が上手で、私は彼女が作った原稿をただ読むだけでいい。それは自分の実力ではないのでとても悔しくて、リベンジの意味で、もぜひタイでチャレンジしたいと思いました。選考を

通りましたが、私は研究を始めたのが遅かったの自信が持てず、心配し過ぎて前に進めない大変な時期を過ごしました。仲間と励まし合い、先生からアドバイスをいただきながら、とにかく頑張るのみでした。

鴨下 国際競争では、日本語のポスターを英語に訳すところから始まり、みんなの前で発表の練習をする段階になっても、私は緊張で自分の名前も言えないほどでした(笑)。「これではタイに行けない」と思い、それからは毎日原稿を読み込んで覚えました。タイでの発表では、みんながうなずきながら聞いてくれたので、「自分の英語が通じている」と安心しました。

井上 この体験を通して、物の見方が変わりました。今まで当たり前だと思っていたことが、当たり前でなくなりました。タイではPCCPの生徒の発表を聞いて、「すごいことだったんだ!」とわかることもあり、帰国してそれらが授業で出てくると、「もっと知りたい!」という興味が増えました。

鴨下 帰国後、積極的に何でもやろうと思えるようになりました。例えば、英語の授業で「コミュニケーションを作ろう」というものがあ

は、基準となるGABA試料の吸光度を計り、その値と自分が担当した試料の吸光度の値を比較することで、測定した試料のGABA含有量を推定する実験を行いました。先方にその結果をお知らせすることになっていましたので、生徒たちは英語での計算式に苦勞しつつ頑張っていました。

——その他の体験など。北野 今回、タイの農業・漁業・環境などに対して政府がどのような取り組みをしているかがわかるスケジュールを先方が組んでくださった。水産試験場や環境センターなど王室が深く関わる場所をはじめ、メークロン川の水上マーケットの見学、ホテルの観察もしました。文部省の生徒が望遠鏡を用意してくれて、緯度の違いで日本とは見え方が違うオリオン座や、木星の衛星を観測しました。

浅井 PCCPと提携している大学ではGABA(天然アミノ酸の一種)の実験をしました。タイ政府では「発芽玄米のGABAを増やそう」というプロジェクトがあるそうで、サイエンス・フェアではそれを活かして、さらに研究を深めていってほしいと思っています。

北野 それらの実験もまた、全て英語で行われました。最大限の努力をして今回の発表に臨んだ生徒たちは皆、研究に対する愛を持っています。コミュニケーションツールのひとつである英語を通じて得た成果を活かし、さらに研究を深めていってほしいと思っています。

開設10周年を迎えた保育実践研究センター「ふらっと文京」は、子育て中の方々の大事な心のオアシスとなっています。息子の瑛太君(1歳11カ月)と共に「ふらっと文京」を訪れた森山宣子さんは、「当初はただ遊ばせたい、安全な場所であってほしい、というものがあ

が、ヘアを組んだ生徒が、でも英語が上手で、私は彼女が作った原稿をただ読むだけでいい。それは自分の実力ではないのでとても悔しくて、リベンジの意味で、もぜひタイでチャレンジしたいと思いました。選考を

通りましたが、私は研究を始めたのが遅かったの自信が持てず、心配し過ぎて前に進めない大変な時期を過ごしました。仲間と励まし合い、先生からアドバイスをいただきながら、とにかく頑張るのみでした。

井上 この体験を通して、物の見方が変わりました。今まで当たり前だと思っていたことが、当たり前でなくなりました。タイではPCCPの生徒の発表を聞いて、「すごいことだったんだ!」とわかることもあり、帰国してそれらが授業で出てくると、「もっと知りたい!」という興味が増えました。

鴨下 帰国後、積極的に何でもやろうと思えるようになりました。例えば、英語の授業で「コミュニケーションを作ろう」というものがあ

は、基準となるGABA試料の吸光度を計り、その値と自分が担当した試料の吸光度の値を比較することで、測定した試料のGABA含有量を推定する実験を行いました。先方にその結果をお知らせすることになっていましたので、生徒たちは英語での計算式に苦勞しつつ頑張っていました。